

# 魅力発信！えひめ農業

令和5年2月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、2月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

## 目次

目次	1
2月のトピックス5選	3
旬菜フェスタ 2023 の開催	3
若い新規就農者等が「農に風をおこす交流研修会」で発表	3
七折小梅の生産安定対策を協議	4
くり園のマッチングで園地の流動化を促進	4
AI 選果機セミナーで実装に期待高まる	5
えひめ農業 NOW.	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
地域農業における女性活躍推進に向け意見交換	6
えひめ地域鳥獣管理専門員が連携し、地域の鳥獣害対策を強化	6
花きの最新情報を収集・周桑地域で活用を検討	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
さといも・やまのいも栽培講習会の開催	7
集落活性化を検討する組織が発足	8
「うま茶」の香りと味で豊かな暮らしを提案	8
ふるさとづくり大会、地産地消・食育推進フォーラムを3年ぶりに開催	9
■東予地方局 産地戦略推進室	9
石鎚黒茶のG I登録に向けて勉強会開催	9
■今治支局 地域農業育成室	9
今治南高で農業の魅力を伝える講座開催	10
菊間町でかんきつS. マルチ実証ほを設置	10
農山漁村男女共同参画社会の推進に向けて関係者が意識統一を図る	11
■今治支局 産地戦略推進室	11
大三島分校生が販売体験で地元の農産物をPR.	11
県内外の観光客に地元農産加工品をPR.	12
花木のせん定講習会を開催	12
■中予地方局 地域農業育成室	13
テレビで「紅い雫」の魅力と天敵利用をPR.	13
インボイス制度開始に備え、改めて農業経営を考える～農業経営管理研修会の開催～	13
中予地区農福連携担当者会を開催	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	14
さといもの栽培講習会を開催	14
青年農業者による七折梅園の環境整備	15
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	15
春の耕作開始に向け、農作業安全講習を実施	15
■中予地方局 産地戦略推進室	16
日本一のパクチー生産者から学ぶ	16
県外市場で鉢物栽培技術を視察	16

■南予地方局 地域農業育成室	17
イノシシから遊子のじゃがいもを守る	17
再編復旧園地における土づくりを指導	17
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	18
鬼北地区の認定農業者が集落営農の先進事例を学ぶ	18
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	18
河内晩柑の自根対策による安定生産を指導	18
中山間地域でラジコン草刈り機の導入を検討	19
■南予地方局 産地戦略推進室	19
スイーツに「媛小春」を提案	19
宇和島市産業まつりで媛小春をPR	20
新たなうめ出荷形態への挑戦を支援	20
出荷品目を増やして産直市の魅力アップへ	21
■八幡浜支局 地域農業育成室	21
集落営農型法人の経営力強化に向けた研修会を開催	21
シトラス講座で「紅プリンセス」を紹介	22
ICT大型捕獲おりの実績検討会を開催	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	23
インボイス制度と簡易課税制度を学ぶ	23
女性農業者が農福連携と地域資源について研修	23
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	24
障がい者施設スタッフを対象としたジョブコーチ育成研修会を開催	24
アシストスーツ着用によるサポート効果を体感	24
■八幡浜支局 産地戦略推進室	24
オレンジフェスタで「媛小春」をPR	25
■農産園芸課 高度普及推進グループ	26
第2回果樹調査研究会を開催	26
長期安定生産・収量向上に向けたいちご高設栽培に関する調査研究会を開催	26

## 2月のトピックス5選

標 題	旬菜フェスタ 2023 の開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 〃 産地戦略推進室
年月日	令和5年2月1日	場所	西条市総合文化会館	
指導対象	管内認定農業者、青年農業者、生活研究協議会員等 (68人)	連携機関	西条市、新居浜市、JA周桑、JA東予園芸、JAえひめ未来	
普及指導内容	<p>○両室が調整のうえ、西条地区認定農業者等連絡協議会、西条・新居浜地区生活研究協議会、西条地区青年農業者連絡協議会3者の共催で3年ぶりに開催。</p> <p>○今回は「地産地消をどう進めるか」をテーマに、県立西条農業高校、認定農業者、中学校栄養教諭など、それぞれの立場から活動報告と意見交換を行った。</p> <p>○同時に、「ひめの凜」やさといもなど地元農産物等16品目を展示し、PRした。</p>			
結果と今後	<p>○意見交換では、「地元のスーパーと連携した地元産品のPRが必要」「学校給食では年間使用量の予想に基づき、複数の生産者が協力し、提供してもらいたい」「医療現場においても医食同源の考えのもと地元産品の導入を増やす動きがある」など多数の有益な意見が出された。</p> <p>○来年度から事業も活用し、地元農産物の利用と地産地消を推進する。</p>			
				
	高校生による活動事例報告	意見交換	地元産品のPR展示	

標 題	若い新規就農者等が「農に風をおこす交流研修会」で発表		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年2月8日	場所	今治市民会館	
指導対象	今治市・上島町認定農業者組織、今治市・上島町生活研究協議会、今治市青年農業者協議会 (83人)	連携機関	今治市、上島町、JAおちいまばり、JA今治立花	
普及指導内容	<p>○I・Uターン等の新たな担い手の確保、育成に向け、地域農業者の意識醸成を図るため、「農に風をおこす交流研修会」を、オンラインを併用して3年ぶりに開催した。</p> <p>○研修会では、JAにしようわが「新たな新規就農者を確保するための体制整備」と題した講演を行った。</p> <p>○また、当室が支援している新規就農者4人が儲かる農業を目指した経営の悩みや夢を発表し、今治南高校は同校の農場で栽培した「媛かぐや」の商品開発プロジェクト活動を報告する等、将来に希望が持てる取組みを紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「JAにしようわの地域が一体となった取組みは大変参考になった」「次代を担う人達が色々な取組みを行っていて頼もしく思った。自分にできることがあれば支援したい」などの意見があった。</p> <p>○当室では今後、新たな担い手の確保、育成に向けた体制整備を進めていく。</p>			
			<p>左：新規就農者の事例発表</p> <p>右：JAにしようわ職員による講演</p>	

標 題	七折小梅の生産安定対策を協議		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年2月1日	場所	砥部町七折地区	
指導対象	ななおれ梅組合員 (20人)	連携機関	砥部町、JA えひめ中央 果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○「七折小梅生産安定プロジェクトチーム会議」を開催し、安定生産につながる優良系統樹の収量・品質の調査状況を報告するとともに、優良系統苗木による改植更新を推進した。</p> <p>○また、産地維持を目的とした省力化技術の普及に取り組むため、実証園の設置や機械導入を進めていることも報告し、関係機関と情報共有を図った。</p>			
結果と今後	<p>○優良系統樹の中に安定した収量と品質をもった系統があり、その系統を苗木として増殖して改植更新に利用することで、安定生産ができるため、今後も優良系統の増殖及び改植を計画的に進めていくことを申し合わせた。</p> <p>○生産安定技術については、その有効性を確認するには至っていないが、農家からの要望もあり、継続して検証することとした。</p>			
				プロジェクトチーム会議で説明

標 題	くり園のマッチングで園地の流動化を促進		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年2月10日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	鬼北地域くり生産者	連携機関	鬼北町農業委員会、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○くり生産者の高齢化に伴い園地の荒廃が懸念される中、新たな担い手の確保に向けた園地のマッチング支援に取り組んでいる。</p> <p>○昨年度、くり生産者を対象に実施したアンケート結果をもとに、拡大志向農家1戸と、縮小志向農家4戸の状況を把握。</p> <p>○2月10日、拡大志向農家を対象に、縮小志向農家の園地見学会を実施した結果、1戸の農家から借り受け希望があった。</p>			
結果と今後	<p>○後日、関係機関との事前協議を経て、双方の農家による対面協議が行われ、賃借に向けた手続きが進められることとなった。</p> <p>○今後も関係機関と連携しながら、くり園のマッチング支援に取り組み、産地の維持と活性化に取り組む。</p>			
				<p>左：拡大希望農家と園地を見学</p> <p>右：拡大・縮小希望農家間の協議</p>

標 題	AI 選果機セミナーで実装に期待高まる		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年2月13日	場所	伊方町川永田 田縁農園倉庫	
指導対象	かんきつ生産者、関係機関職員ら (50人)	連携 機関	西宇和スマート農業推進協議会	
普及指導 内容	<p>○管内で初めて AI 選果機（中晩柑タイプ）を導入した田縁農園でセミナーを開催し、令和元年～2年度に取り組んだ「スマート農業加速化実証プロジェクト」の概要と実証成果について報告した。</p> <p>○田縁農園と（株）NP システム開発が、「選果に不慣れなアルバイトにも作業を任せられる」「選果能率が3倍に向上した」など、その効果と使用方法を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、AI による判別精度を確認し、「選果時間が短縮され、他の作業に時間が割ける」「夜遅くまで選果を行う必要がなくなる」など、省力化に大きな期待を寄せた。</p> <p>○今後、さらに1機の導入が予定されており、導入農家での費用対効果や選果データを活用しながら、他農家への実装を図る。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p><b>【AI 選果機】</b> ベルト上に果実を置くと5方向からのカメラと糖酸センサーで、大きさ、外観、糖度、酸度を判定し、階級ごとにトレイ上に選別される</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>AI 選果機セミナー</p> </div> </div>				

## えひめ農業 NOW

標 題	地域農業における女性活躍推進に向け意見交換		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年2月16日	場所	東予地方局西条第二庁舎 大会議室	
指導対象	農山漁村男女共同参画東予地区連絡会（18人）	連携機関	西条市、新居浜市、四国中央市、JA周桑、JAえひめ未来	
普及指導内容	<p>○東予地域における女性農業者の活躍推進への意識統一を目的に令和4年度農山漁村男女共同参画東予地区連絡会議を3年ぶりに開催した。</p> <p>○伊方町でかんきつ農家を営む大久保聡俊・玲香夫妻を講師に迎え、農業経営上での夫婦の役割分担や移住就農支援などの実情等について講演いただいた。</p> <p>○令和3年度に策定された愛媛県農山漁村における男女共同参画に関する方針について説明し、各関係機関・団体・組織における推進目標について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○講演後、女性組織からは新規就農者への支援の参考にしたいとの声があった。</p> <p>○事務局から提案した推進目標に向けて、各機関や団体、組織で連携し、女性農業者が活躍できる環境づくりに努める意思を確認できた。</p> <p>○意見交換を通じて、男女共同参画に対する農業者の生の声が聴けたため、今後の取組みへ反映させる。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：大久保夫妻による講演</p> <p>右：講師との意見交換</p> </div> </div>				

標 題	えひめ地域鳥獣管理専門員が連携し、地域の鳥獣害対策を強化		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年2月24日	場所	愛媛県西条第二庁舎	
指導対象	東予地域えひめ地域鳥獣管理専門員（15人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○東予地域えひめ鳥獣管理専門員連絡会を開催し、各専門員が担当地域で今年度取り組んだ技術指導、集落づくり活動等について報告を行い、情報・技術交換を実施した。</p> <p>○次年度からの新たな取組みについても検討した。</p>			
結果と今後	<p>○東予地域のえひめ地域鳥獣管理専門員は、今年度、3人が認定され、合計15人となった。</p> <p>○新規認定者からは「水路用電柵活用によるイノシシ被害対策事例」や「アンケートを活用した被害実態の把握と対策」について、既認定者からは地域づくりや新技術導入の活動報告があり、新たな情報として共有し、資質向上につなげた。</p> <p>○次年度以降も当会を継続し、東予地域で増加するニホンザル被害対策を中心に、東予地域が一体となり対策を強化していくことを申し合わせた。</p>			
 <p>持ち寄った技術・情報を共有</p>				

標 題	花きの最新情報を収集・周桑地域で活用を検討		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年2月2日、3日、17日	場所	静岡県、東京都 東予地方局第二庁舎	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会花き実践班（3人）	連携機関	JA 周桑、JA 東予園芸、県立丹原高校	
普及指導内容	<p>○西条地区青年農業者連絡協議会花き実践班の花き先進地視察及び市場調査を支援した。</p> <p>○JA とびあ浜松ではミモザアカシアの促成技術やユーカリの栽培方法、大田市場では新型コロナウイルスによる花きの流通や需要の変化、市場の動向を情報収集し、班員が生産するバラや花木の情報交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○花き実践班員は、大田市場へ多肉植物の出荷開始や、ユーカリのせん定方法等の技術の習得など、各自の課題解決ができた。</p> <p>○今回の市場調査や情報収集の結果を、周桑広域営農団地推進協議会花き専門部会において、JA やミモザアカシアの促成技術等の花木実証に協力を得ている県立丹原高校に情報共有し、花き産地拡大に活かすこととしており、今後、関係機関が連携した新規品目導入が期待される。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ユーカリほ場の見学</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大田市場で情報収集・意見交換</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>花屋で市場調査</p> </div> </div>				

標 題	さといも・やまのいも栽培講習会の開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年2月14日、15日	場所	JA うま（3支店・経済センター）	
指導対象	管内さといも・やまのいも生産者（80人）	連携機関	JA うま	
普及指導内容	<p>○さといもの安定多収栽培技術普及による産地の拡大、やまのいもの高品質多収栽培技術の底上げと省力化による産地の維持・強化に向けた講習会を開催。</p> <p>○令和5年産の重点対策として、さといもは「疫病防除体系モデルの変更(新規登録薬剤の追加)」、やまのいもは「優良系統の種芋選別と贈答用中玉栽培・マルチ栽培」を挙げ、意見交換しながら適期管理の徹底を周知した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、安定生産にかかる種子の確保と消毒、施肥、病害防除実証成果等の質問が寄せられ、次期作への強い思いが感じられた。</p> <p>○さといもは「集落が一体となった疫病防除の実施、高収益モデル農家の技術実証、省力技術普及の推進」、やまのいもは「贈答用中玉栽培の普及拡大、マルチ栽培の安定生産」を柱とし、関係機関連携の下、産地の維持強化を指導していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>次期作への強い思いを受けた講習</p> </div> </div>				

標 題	集落活性化を検討する組織が発足		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年2月21日	場所	四国中央市大西山田集会所	
指導対象	天満集落活性化検討会役員会 (5人)	連携 機関	四国中央市	
普及指導 内容	○四国中央市土居町天満地区において、次世代の集落リーダーの育成や、リーダーを中心とした担い手への農地あっせんなど、地域の農業・農地を守り、活性化するための体制づくりとして、集落活性化検討組織の設立を指導、支援してきた。			
結果と今後	○当日、「天満上基盤整備地区人・農地プラン（中心経営体記載）」の内容が決定され、市の手続きを経た上で、本年度中に四国中央市で初の人・農地プランが2地区策定されることとなった（同町関地区と併せて計2地区でプラン策定）。 ○今後は、プラン等を検討してきた組織をグレードアップし、規約を設けた「天満の未来農業を考える会」を発足させる運びとなっており、地域の農業・農地を守っていく組織として、継続的な活動と地域の活性化を支援する。			
 <p>天満地区農業の未来図を協議</p>				

標 題	「うま茶」の香りと味で豊かな暮らしを提案		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年2月25日	場所	SweeTomato <sup>2</sup> （四国中央市土居町）	
指導対象	一般消費者（5人）	連携 機関	四国中央市	
普及指導 内容	○うま茶振興協議会のブランド茶「結の霧ひめ」などを取り扱っている市内飲食店において、うま茶の更なる認知度向上とファンづくりのため、一般消費者を対象とした「お茶カフェ」事業の実施を支援。 ○当日は、野菜ソムリエプロ等の資格を有する講師からお茶の栄養成分とその働きについて説明を行った後、抹茶ケーキの試食を交えながら、当班から、うま茶の紹介と、食事や生活スタイルに応じたお茶の楽しみ方などを提案した。			
結果と今後	○参加者からは、うま茶の認知度向上については、「注目を集めるデザインや、関心を高めるお茶の楽しみ方等の SNS 配信」「親子などを対象にした身近な暮らしの中でのお茶講座の開催」などが必要ではとの声が聞かれた。 ○うま茶の PR や販路拡大には、消費者の視点や意向が欠かせないことから、今後もこれらの意見を踏まえながら、観光施設や他産業と連携した商品開発など、斬新な手法も取り入れながら効果的な周知と販売方法を企画・提案していく。			
<p>【産地と日常をつなぐ「お家カフェ」事業】 四国中央市の茶（うま茶）の産地やブランド茶の魅力等を消費者に向けて情報発信し、SNSでの広がり等を通じた認知度向上や販売促進を図る「うま茶振興協議会」の事業（R4は年4回開催）。</p>			 <p>お茶園ごとに異なる味と香りに魅了</p>	

標 題	ふるさとづくり大会、地産地消・食育推進フォーラムを3年ぶりに開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年2月4日	場所	JA うま総合経済センター	
指導対象	管内認定農業者、生活研究協議会 員、青年農業者等（約100人）	連携 機関	四国中央市、JA うま	
普及指導 内容	<p>○四国中央農山漁村ふるさとづくり大会実行委員会が主催する「第48回四国中央農山漁村ふるさとづくり大会」及び「第18回四国中央市地産地消・食生活推進フォーラム」の開催を支援。</p> <p>○3年ぶりとなった今回は、新宮小学校5年生が新宮茶の歴史やお茶づくり、生活研究協議会が地産地消や食育活動に関する事例発表を行った後、フードトレンドクリエイターのやのくにこ氏が「生活者（消費者）と生産者を繋ぐ架け橋に」と題した基調講演を実施。</p> <p>○終了後、生産者がこだわりの農産物や加工品を対面販売する産直市を開催。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は食の多様化に応じた農業生産を実践し、消費者は生産者の思いや旬の良さを感じ調理すること、生産者と消費者の交流を進めること等、更なる地産地消や食育の推進に向け参加者の意識の高揚が見られた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、地産地消・食育活動を支援する。</p>			

【四国中央農山漁村ふるさとづくり大会実行委員会】  
食の安全・安心、安定供給の確立、地産地消の推進、美しく活力ある農村社会づくりを消費者等と相互理解を深め、ともに考えることを目的に、認定農業者等連絡協議会、生活研究協議会、青年農業者連絡協議会、地産地消推進協議会の4団体及び関係団体で構成。



小学生による茶の事例発表



終了後、産直市を好評に開催

標 題	石鎚黒茶のGI登録に向けて勉強会開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年2月9日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	石鎚黒茶生産関係者連携協議会 (21人)	連携 機関	中国四国農政局	
普及指導 内容	<p>○生産者団体の意見を受け、石鎚黒茶生産関係者連携協議会（会長：障害者事業所ピース 日野哲也氏）を対象に、地理的表示（GI）保護制度第1回勉強会を開催し、生産3団体、西条農業高校、西条市、中国四国農政局の担当者が出席した。</p> <p>○これは、石鎚黒茶が国指定重要無形民俗文化財に答申され、注目度が高まる反面、模倣品が製造される恐れがあることから、地域の知的財産として保護できる本制度登録を目指すため、中国四国農政局の指導者を講師に招き勉強会を開催したもの。</p>			
結果と今後	<p>○生産3団体は登録に前向きなもの、生産地の範囲や新規加入の取扱いなど考えの相違がみられることから、関係機関と連携し意識統一を図りつつ、第2回勉強会を開催し、登録がスムーズに進むよう支援していく。</p>			

【石鎚黒茶】  
西条市小松町石鎚地区に古くから伝わる「石鎚黒茶」は、国内で2か所しか製造していない2段発酵茶の1つ

【生産関係者連携協議会】  
石鎚黒茶の産地化・ブランド化を図るため、生産3団体、西条市、東予地方局（事務局）で構成



勉強会

標 題	今治南高で農業の魅力伝える講座開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年2月6日	場所	県立今治南高校日高農場	
指導対象	今治南高校1、2年生(45人)	連携機関	今治市、上島町、農業大学校	
普及指導内容	<p>○将来の就農候補者に今治の農業の魅力伝えるため、魅力ある農業を实践する農業者3人を講師に招き、同校日高農場で令和4年度就農啓発講座を開催した。</p> <p>○県農業指導士からは、高設栽培によるエコえひめ認証(農薬化学肥料3割減)のイチゴ栽培について、また、青年農業者2人からは、脱サラ、Uターンし、夫婦で営んでいる観光イチゴ園やイチゴの加工品の販売などの取組みを紹介した。</p> <p>○また、当室から就農に向けた支援や、農業大学校からカリキュラムの説明を行った。</p>			
結果と今後	<p>○生徒からは、「職業としての農業に理解を深めることができた」などの意見があった。</p> <p>○次年度も引き続き高校生に、今治の農業の魅力伝える機会を増やしていく。</p>			
				<p>左：農業指導士による講演 右：生徒が質問</p>

標 題	菊間町でかんきつ S. マルチ実証ほを設置		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年2月24日	場所	今治市菊間町	
指導対象	かんきつ生産者	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○菊間町の農業法人が温州みかん園で S. シート(通路側から根域への水の流入を防ぐシート)の埋設作業を実施した(敷設面積 830m<sup>2</sup>)。これは、越智今治広域営農団地推進協議会の実証ほとして設置したもの。</p> <p>○作業にあたっては、当室で制作した動画を用いて設置要領、施工時の注意点(重機での掘削方法など)を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○設置には5人で3時間を要した。今後、夏を目途に、かん水チューブと全面マルチを設置し、果実糖度の上昇を目指す。</p> <p>○大西町、上浦町(農研機構が設置)でも3月に実証ほを設置する予定。JAと協力して実証ほの設置、調査を実施し、その結果を「はれひめ」「愛媛果試第28号」へも波及させていく。</p>			
<p>【シールディング・マルチ(S.マルチ)栽培】 雨水のマルチ下への流入とマルチ外への根の伸長を防止し、確実な乾燥ストレスを付与し、糖度上昇を目指すもの</p>				
<p>重機を使用し、園地全体を囲う様に S. マルチを設置</p>				

標 題	農山漁村男女共同参画社会の推進に向けて関係者が意識統一を図る		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年2月28日	場所	今治市	
指導対象	今治上島地域農山漁村男女共同参画地区連絡会議（13人）	連携機関	公益財団法人えひめ女性財団	
普及指導内容	<p>○農山漁村男女共同参画強化事業の一環で、今治上島地域農山漁村男女共同参画地区連絡会議を開催し、共同参画社会の推進に向け意識統一を図った。</p> <p>○当室からは、県内および管内の女性認定農業者数や農業委員の登用人数などのデータを用いて女性の経営参画の現状を説明した。</p> <p>○また、(公財)えひめ女性財団の門田副参事から「農山漁村における方針決定過程への女性参画の推進に向けて」と題して講演いただいたのち、女性役員登用への壁と打ち破る方策について、ワークショップで意見を出し合った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「個人的には男女をあまり意識せず対応しているが、データ等を踏まえると、組織的には不十分」等の意見が挙げられた。</p> <p>○また、「世代交代を待っているだけでは、ジェンダーギャップは解消しない」をスローガンに、各組織・団体で「男女が共に」の視点から活動するための話し合いの場を積極的に設けること等を申し合わせており、当室も継続的に支援する。</p>			
				<p>左：門田講師によるワークショップ 右：女性組織代表による意見発表</p>

標 題	大三島分校生が販売体験で地元の農産物をPR		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年2月12日	場所	今治市	
指導対象	今治北高等学校大三島分校生（9人）	連携機関	大三島みんなのワイナリー	
普及指導内容	<p>○将来の担い手候補者である同校生徒らに地域農業の魅力を伝えるため、「せとうちみなとマルシェ」に当室が設置している共同販売ブースにおいて、地元農産加工品の販売体験を企画した。</p> <p>○当日は、「(株)大三島みんなのワイナリー」の協力のもと、生徒がしまなみ地域をイメージしてデザインしたオリジナルラベルのワインを販売。また、併せて地元産のオリーブやレモンのコンポート等の試食販売も体験した。</p>			
結果と今後	<p>○生徒らは、これまでにごぶどうの収穫や醸造体験のほか、レモンやオリーブの生産現場を見学。今回の対面販売を通して、収穫から販売までの一連の流れを学習した。引率教員からは、「一連の体験が、生徒が進路を決めるときの良い判断材料になるだろう」との声があった。</p> <p>○次年度以降も継続して同マルシェで地元農業者や関係事業者等としまなみ農産加工品のPR、販売に取り組んでいく。</p>			
				
<p>高校生デザインのオリジナル ワインラベルの貼りつけ</p>		<p>ワイン等の試飲販売体験</p>		<p>生徒がデザインしたワイ ンラベルと記念撮影</p>

標 題	県内外の観光客に地元農産加工品を PR		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年2月12日、26日		場所	せとうちみなとマルシェ会場
指導対象	作田商事(株)、三皿園 M's farm、山本農園		連携 機関	せとうちみなとマルシェ実行委員 会、今治地方観光協会
普及指導 内容	<p>○しまなみ地域の特色ある農産加工品を広く PR するため、毎月2回今治港で「せとうちみなとマルシェ」が開催されているが、当室の設置している共同販売ブースについて、新たに農業者4人から参加の希望があり、個別に商品情報の聞き取り等を行った。</p> <p>○今回、参加を希望した農業者は、有機農産物の生産加工やIターンで就農し新たな販路等を模索していた法人や個人で、2月より同ブースでの共同販売に参加することになり、販売商品の選定やPR用のPOP作成等について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○マルシェには、毎回約12,000～15,000人の県内外の観光客等が来場しており、同ブースでの販売も好調で、一部の商品は完売が続いている。</p> <p>○今後も新たな商品の出品を検討するとともに、同ブースの運営や販売指導等を通して農業者の販売拡大を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>三皿園との協議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>M's farmとの協議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>共同販売ブースでの販売</p> </div> </div>				

標 題	花木のせん定講習会を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年2月22日、28日		場所	今治市(玉川、菊間、大三島、伯方)、上島町(岩城)
指導対象	花き生産者(49人)		連携 機関	JAおちいまばり
普及指導 内容	<p>○花木のせん定技術向上のため、今治市や上島町内5か所でせん定の講習会を開催した。</p> <p>○ビブルナム・ティナス等は、枝を切り返すことによって次年度も連続して品質の良い枝を収穫することができるため、講習会では、前年度までの実証結果をもとに作成した資料を用いながら実際にせん定する実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○講習会に参加した生産者から「自身のほ場でもせん定してみたい」との要望があったことから、追加で数件の園地に出向き、自身で木を切ってもらいながらせん定のポイントを個別で指導した。</p> <p>○今後は、当室が作成した生産者別の出荷予測表をもとに、秀品率や出荷量の向上を図るための生産指導を行う。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>普及指導員が実際にせん定しながらポイントを説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>せん定した花木</p> </div> </div>				

標 題	テレビで「紅い雫」の魅力と天敵利用を PR		機関名	中予地方局地域農業育成室 産地戦略推進室
年月日	令和5年2月21日	場所	松山市 北条地区	
指導対象	いちご「紅い雫」生産者	連携機関	(株)テレビ愛媛、ブランド戦略課	
普及指導内容	○県オリジナル品種「紅い雫」の認知度向上及び天敵利用技術の PR を目的に、松山市の生産者ほ場における農産物紹介番組の収録を支援した。			
結果と今後	○生産者がほ場で実際に収穫しながら、品種の特徴や栽培のこだわり、食べ方等について説明。 ○あわせて、当室の指導により導入した天敵製剤（カブリダニ類）の利用による農薬使用量低減等の効果を紹介したほか、収穫物はジャムやいちご大福等に調理し、出演者で試食した。収録内容はテレビ愛媛「ゆ〜ばら」で放送されることとなった。 ○引き続き、県オリジナル品種の認知度向上及び高品質安定生産技術の普及を図る。 (3/4 (土)、3/11 (土) のテレビ愛媛「ゆ〜ばら」(17:00~17:30) 内で放送)			
				<p>左：テレビ番組の収録</p> <p>右：天敵製剤の設置</p>

標 題	インボイス制度開始に備え、改めて農業経営を考える～農業経営管理研修会の開催～		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年2月6日～13日	場所	松山市及び東温市	
指導対象	新規就農者・認定農業者等 (28人)	連携機関	松山市、東温市	
普及指導内容	○管内3か所で農業経営管理研修会を実施した。 ○当室から複式農業簿記に係る決算処理のポイントや、データを活用した経営分析方法等について説明した後、個別相談会で農家個々の案件について対応した。 ○また、和泉税理士事務所の和泉由紀夫税理士より、インボイス制度について具体例や対応方法、特例制度等について説明があった。			
結果と今後	○今年10月からインボイス制度が本格的に始まり、農業者は課税事業者になるか否かの判断を自ら行う必要があるため、参加者からは多くの質問があった。 ○今後も各地区で研修会を開催する予定で、インボイス制度や農業経営管理に関する農家からの問い合わせには、専門家の協力を得ながら随時対応する。			
				
研修会		個別相談会		

標 題	中予地区農福連携担当者会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年2月27日	場所	中予地方局ほか（Web開催）	
指導対象 （参集者）	JA松山市、JAえひめ中央、松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町各担当者 計8人	連携 機関	JA全農えひめ、農地・担い手対策室	
普及指導 内容	<p>○中予地区の農福連携推進に係る関係機関の意識統一を目的に、担当者会を開催した。</p> <p>○当室から、今年度の中予における支援活動等の状況と実績を報告したほか、農地・担い手対策室から、国や県の取組状況や事業の紹介があった。</p> <p>○また、各機関から把握事例や情報及び今後の取組予定等について発表された。</p>			
結果と今後	<p>○各担当者が管内の現状や今後の課題を共有できたほか、今後も関係機関が一体となって、農家の労働力補完の一手法として農福連携を支援して行くことを確認した。</p> <p>○更に、今後は農福連携以外の労働力補完についても検討し、農業現場の労働力確保をより一層支援することを申し合わせた。</p>			
				<p>左：オンライン会議画面 右：中予地方局参加者</p>

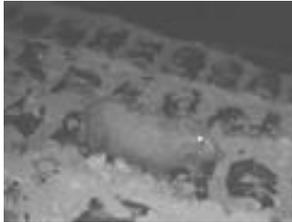
標 題	さといもの栽培講習会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年2月15日	場所	JA松山市岡田支所	
指導対象	松前町内の集落営農組織（6人）	連携 機関	JA松山市、農林水産研究所	
普及指導 内容	<p>○令和5年度に作付けするさといも「愛媛農試 V2 号」の栽培管理のポイントを確認するために講習会を開催し、健全な種芋の使用、ケイ酸カリの導入、水はけが良くできる限り10月頃まで水が引けるほ場の選定等を指導した。</p> <p>○また、来年度から新たに栽培に取り組む「媛かぐや」の栽培管理や今後の展望についても情報提供を行った。</p>			
結果と今後	<p>○JA担当者によると「1月末時点で76t集荷しており、既に期間中の想定集荷量（60t）を超え、100t以上となる見込み」とのことで、生産者の大きい期待がうかがえた。</p> <p>○「媛かぐや」についても、経営補完作物として期待が寄せられており、今後、関係機関と連携して産地の育成に取り組む。</p>			
		<p>栽培講習会</p>		

標 題	青年農業者による七折梅園の環境整備		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年2月6日	場所	砥部町七折梅園	
指導対象	砥部町青年農業者協議会、ななおれ梅組合員（15人）	連携機関	砥部町	
普及指導内容	○砥部町青年農業者協議会の地域貢献活動として、砥部町七折にある農事組合法人ななおれ梅組合が主催する「七折梅まつり」の開催に向け、イベント会場となる七折梅園周辺の環境整備活動を支援した。			
結果と今後	○会員からは「地域の役に立つことができている」「七折梅まつりの来場者が、安全に楽しめるよう環境整備できて良かった」との声が聞けた。 ○今後も青年農業者組織における地域貢献活動の企画立案を支援し、青年農業者と地域のつながりを深めていきたい。			
				<p>左：園内道の草刈り 右：伐採した竹の粉砕</p>

標 題	春の耕作開始に向け、農作業安全講習を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年2月17日	場所	久万高原町畑野川	
指導対象	久万農業公園 研修生（6人）	連携機関	久万高原町、JA松山市	
普及指導内容	○本格的な耕作開始に先立ち、研修生の農作業事故防止を図るため安全講習会を実施し、農作業事故の発生状況、各種農業機械の操作上の注意点、事故発生時の対処方法や保守点検方法について指導した。			
結果と今後	○研修生からは「機械操作を誤ると事故につながるので気をつけたい。日常点検で確認する箇所がわかった」などの声が聞かれた。 ○次回は、3月に久万農業公園の新規研修生を対象に、農作業安全講習を実施する。			
				
農作業安全講習		農業機械の保守点検		

標 題	日本一のパクチー生産者から学ぶ		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年2月8日	場所	(株)香月菜園 (福岡県)	
指導対象	パクチー生産者 (13人)	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○地方局予算「パクチー周年安定生産体制確立事業」の一環で、管内の課題の1つとなっている効率的な収穫・調製作業の方法や栽培技術等の調査を目的に、福岡県久留米市で日本一のパクチー生産量を誇る(株)香月菜園を視察した。</p> <p>○同社は、82棟3.3haのハウスで、他の野菜品目と組み合わせてローテーションで作付しており、周年安定生産する方法や、多様な労働力を効率的に活用し、鮮度を落とすことなく出荷する方法について学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○収穫開始時間を始め、収穫・調整方法が管内事例と大きく異なっているが、効率化につながる取組みについては、今後、積極的に取り入れるよう検討をすすめる。</p> <p>○3月13日に開催する連絡会議において、生産者や関係機関と情報共有、意見交換等を行い、安定出荷・産地拡大につなげる。</p>			
				<p>左：ハウス内の収穫期のパクチー 右：出荷調整作業</p>

標 題	県外市場で鉢物栽培技術を視察		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年2月25日	場所	豊明花き(株)	
指導対象	さくらひめ鉢物生産者 (2人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○地方局予算「さくらひめ鉢物産地づくり推進事業」の一環で、市場・消費者ニーズを調査するため、愛知県の豊明花き(株)主催のトレードフェアに参加した。</p> <p>○管内の生産者も「さくらひめ鉢物」を始めとする鉢物を出展。市場担当者から「さくらひめ鉢物」等の需要動向について聞き取ったほか、県内外の鉢物生産者からデルフィニウム鉢物の生産と流通に関する情報を収集した。</p>			
結果と今後	<p>○「さくらひめ鉢物」の評価は高く小売店からの要望も多いことから、更なる出荷拡大が望まれていた。</p> <p>○3月10日に開催する連絡会議において、生産者や関係機関と情報共有、意見交換等を行い、需要期出荷、生産量の拡大につなげる。</p>			
				<p>左：トレードフェア会場 (豊明市) 右：他県生産者のデルフィニウム鉢物</p>

標 題	イノシシから遊子のじゃがいもを守る		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年2月2日	場所	宇和島市遊子	
指導対象	生産者（3人）	連携機関	宇和島市	
普及指導内容	<p>○宇和島市遊子地区の「遊子水荷浦の段畑」では、古くからじゃがいもが栽培され、地域の名産品となっており、収穫期を迎える4月には「だんだん祭り」も開催され多くの人で賑わっている。</p> <p>○しかし、近年、ほ場周辺に設置したワイヤーメッシュ柵を越えるなどしてイノシシが侵入し、じゃがいもを食害するほか、段畑の石垣を崩すなど被害が見られるとの相談を受け、地域の生産者と対応策について検討した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者への聞き取りから、被害の発生している地点にセンサーカメラを設置したところ、後日、撮影された映像から、園地を掘り返すイノシシの様子が確認された。</p> <p>○これを受け、生産者と映像を見ながらイノシシの侵入経路や被害の発生状況を確認し、防護柵の強化や侵入箇所の封鎖、箱わなによる捕獲活動の継続など、効果的な被害の軽減対策について指導した。</p>			
				<p>左：獣害対策について指導 右：ほ場を荒らすイノシシ (センサーカメラの映像)</p>

標 題	再編復旧園地における土づくりを指導		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年2月16日	場所	宇和島市吉田町白浦コミュニティセンター	
指導対象	生産者（7人）	連携機関	農村整備課、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○平成30年7月豪雨災害により被災した白浦地区の再編復旧工事が進み、令和5年度から順次園地が完成するため、営農再開に向けた品種選定や土づくりなどの技術を指導している。</p> <p>○こうした中、白浦工区の入植者7人を対象に基本管理技術講習会を開催し、「紅プリンス」の導入推進や堆肥を使った土壌改良、かん水方法等について説明した。</p> <p>○また、未収益期間の短縮には2年生苗木の植栽が効果的であることを説明し、計画的な苗木の確保について関係者で情報を共有した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者は、改めて土づくりの大切さを認識するとともに、工事が完了するまでの間の苗木の育成に最も大切な水源の確保について現状や課題を協議した。</p> <p>○今後も定期的にこのような勉強会を開催し、工事の進捗に合わせた園地別のきめ細やかな技術指導を行う。</p>			
				<p>左：白浦工区の完成した園地 右：白浦工区営農部会で堆肥を使った土づくりを指導</p>

標 題	鬼北地区の認定農業者が集落営農の先進事例を学ぶ		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年2月21日	場所	高知県	
指導対象	鬼北地区認定農業者等	連携機関	鬼北町、松野町	
普及指導内容	<p>○鬼北地区では、生産者の高齢化や担い手不足から水田の作業受託が増加しており、今後、組織的な取組みと連携の必要性が高まる中、地区の認定農業者が集落営農の先進事例研修を実施した。</p> <p>○今回、高知県のJA出資型法人「(株)土佐くろしお村村営みのり」と、集落営農組織同士が連携した「(株)サンビレッジ四万十」の2事例を視察し、組織の役員やオペレーターの報酬確保による持続可能な組織運営や、太陽光発電と農地活用を組み合わせた収益確保と農地の維持対策について研修した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「利益が見込みにくい農地を守る取組みと、収益を確保する農業生産の両面をバランス良く運営することの重要性を学んだ」との話があり、当班では引き続き、将来にわたり持続可能な担い手組織を育成する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">左：集落営農の推進に向けた意見交換 右：新たなソーラーシェアリングの取組み</p>				

標 題	河内晩柑の自根対策による安定生産を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年2月17、24日	場所	愛南町御荘平城、緑	
指導対象	JAえひめ南味楽共選南宇和支部 生産者	連携機関	JAえひめ南	
普及指導内容	<p>○河内晩柑の苗木の植え付け適期を前に、自根発生抑制と苗木の適切な植栽方法について講習会を開催した。</p> <p>○河内晩柑は、自根の発生が多いほど強勢となり、着果量の減少傾向が強くなることを報告し、対策として ①苗木の深植えを避け、自根を発生させないこと。②自根が発生している樹には、4月に地際近くの主幹にチェーンソーで傷を入れ、影響を軽減できること等を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「チェーンソーによる傷入れはいつまで可能か」、「傷入れの深さはどのくらいか」等の質問があり、本技術への高い関心がかうかがえた。</p>			
 <p>河内晩柑の自根対策について講習</p>				

標 題	中山間地域でラジコン草刈り機の導入を検討		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年2月19日	場所	愛南町大僧都	
指導対象	大僧都中山間集落協定参加農家	連携機関	愛南町、JA えひめ南 南宇和宮農センター	
普及指導内容	<p>○愛南町の山間地に位置する大僧都中山間集落で、ラジコン草刈り機の導入に向けた研修会を開催した。</p> <p>○同地区は、基盤整備の進捗で水稻栽培等の省力化は進んだが、畦畔は急傾斜で除草作業の負荷が大きく、足滑り等の危険性が指摘されている。</p> <p>○今回、秋口から草刈りを控えていた研修会用の畦畔において、農機具メーカーの担当者による実演に続いて、農家もラジコン操作による草刈りを体験した。</p>			
結果と今後	<p>○今回のラジコン草刈り機は、4WD・4WS ながら、40度の傾斜と降雨の中、走行に伴い傾斜の下方方向へ滑るため、参加者は当機種種の導入は難しいとの認識を持った。</p> <p>○今後、クローラー型など他の製品を今回と同様に実証していくことにしており、当班では引き続き、安全で効率的な畦畔管理の実現に向けて支援を継続する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>法面での作業を確認する参加者と転落防止ロープを引く担当者</p> <p>【大僧都中山間集落協定】 僧都地区の農家40戸が参加。協定面積は約28ha。 基盤整備田の維持管理等に向け、除草や水路の清掃作業や共同活動や鳥獣害対策等の研修会を開催している。</p> </div> </div>				

標 題	スイーツに「媛小春」を提案		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年2月7日、17日	場所	宇和島市、松山市	
指導対象		連携機関	ブランド戦略課	
普及指導内容	<p>○県オリジナル品種「媛小春」は、出荷期間が短く生産量が少ないことから味の良さを知らせてもらう機会が極めて限定的である。</p> <p>○そこで、一般消費者への認知度向上につなげようと、スイーツへの活用を提案するため、宇和島市および松山市の業者と協議を行った。</p>			
結果と今後	<p>○業者からは「香りがよく色も特徴的で好印象」「希少なかんきつであれば高単価でも商品化できる」など前向きな意見が寄せられた。</p> <p>○3月14日のホワイトデー向けの試作を予定しており、引き続き商品化への支援を行うとともに、生産者とのマッチングなどを検討していく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：宇和島市のフルーツサンド業者へ提案</p> <p>右：試食してイメージを膨らませる松山市の業者</p> </div> </div>				

標 題	宇和島市産業まつりで媛小春を PR		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年2月19日	場所	宇和島市きさいや広場	
指導対象		連携機関	宇和島市	
普及指導内容	<p>○県オリジナル品種「媛小春」は、生産量が少ないため店頭へ出回らず、一般消費者の認知度も低く、味の良さを知る人は多くない。</p> <p>○黄色い見た目と甘い食味のギャップを持つ同品種の認知度向上を図るため、3年ぶりに開催された「宇和島市産業まつり」に特設ブースを設け、パネルを用いた品種特徴の説明や試食によるPRを実施した。</p>			
結果と今後	<p>○200人以上の試食の結果、8割以上が「媛小春」を初めて知ったとのことで、味の良さに感動したという感想や、出回る時期や購入可能な場所などについての質問が寄せられるなど、商品性の高さが証明された。</p> <p>○また、既に知っている人のなかには「おいしいのが分かっているから色や果形は気にならない」などの意見もあったことから、味の良さを重点的に打ち出す工夫をしながらPR活動を継続していく。</p>			
				<p>左：試食の他、パネルを用いて収穫時期や特長を説明</p> <p>右：こみきゃん媛小春 子供を中心に人気</p>

標 題	新たなうめ出荷形態への挑戦を支援		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年2月21日	場所	松野町延野々	
指導対象	松野町梅振興会員	連携機関	(株)松野町農林公社	
普及指導内容	<p>○新たなうめの需要として、青梅での出荷要望のある酒造メーカーへの対応のため、初めて青梅出荷にチャレンジする生産者の園地づくりを指導した。</p> <p>○これは、(株)松野町農林公社と協議して選定した新規出荷候補者に対して、翌年度以降の出荷開始及びその継続に向けて行ったもの。</p> <p>○自然に落果した果実を収穫する完熟梅に対し、青梅は摘み取る必要があることから、結果部位が上部に集中している高樹高樹を、収穫作業等の省力化が可能となるよう低樹高化させるせん定方法を指導。</p>			
結果と今後	<p>○最高5mほどの樹高を3～4mまで切り下げ、収穫作業性の向上や結果部位の下方移行、樹冠内部への採光の改善による花芽の増加を狙っている。</p> <p>○更なる作業性の向上を目指して、今後も徐々に切り下げ作業を進めながら、新たに青梅出荷に取り組む生産者確保に向けた園地モデルとなるよう指導する。</p>			
				<p>左：背面に伸びる15～20cmの枝を切除</p> <p>右：上部を一気に切り下げ</p>

標 題	出荷品目を増やして産直市の魅力アップへ		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年2月22日	場所	道の駅みま	
指導対象	道の駅みま出荷部会員（199人）	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○産直市の魅力向上を目指し、同駅をモデル産直市と位置づけ、生産者にも来店客にも魅力ある拠点となるよう、品目の多様化と出荷量の増加に向けた野菜栽培講習会を開催し、出荷部会員199人のうち53人が参加した。</p> <p>○会では、種苗会社担当者の産直向けおすすめ夏秋野菜品種（16品目、66品種）紹介や、選ばれる産直市となるためのこだわりや出荷品目の重要性等を示し、参加者の生産意欲向上を促した。</p>			
結果と今後	<p>○会終了後、多くの出荷者が担当者に個別相談するなど、栽培品目・品種の関心の高さがうかがえた。</p> <p>○同駅は、欠席した146人にも講習会資料を配布するほか、紹介した品目・品種の苗の注文とりまとめを行う予定で、多くの会員による多様な品目の栽培・出荷を期待している。</p> <p>○品目別の現地栽培研修は随時実施し、6～7月に次回講習会を予定している。</p>			
				<p>左：多様な夏秋野菜を紹介</p> <p>右：熱心に質問する会員</p>

標 題	集落営農型法人の経営力強化に向けた研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年2月10日、20日	場所	八幡浜支局、伊方町中浦	
指導対象	集落リーダー等（18人）	連携機関	JAにしうわ、伊方町、八幡浜市、西予市、みかん研究所	
普及指導内容	<p>○地方局予算「西宇和地域柑橘集落営農組織支援事業」の一環として、法人の経営力強化を目的に、8月に実施した経営計画策定を一步進めるとともに、モデル園に植栽している「紅プリンセス」の栽培管理技術の向上に向け研修会を開催した。</p> <p>○講師であるIMソリューションズ(株)の岡本陽氏から、目標設定時には、具体的、計測可能、達成可能、関連、期限を意識することが必要であるとのアドバイスを受け、5年後の経営目標の設定を行った。</p> <p>○栽培技術研修会では、みかん研究所が「紅プリンセス」の目標階級、果実品質や摘果、せん定などの栽培技術及びモデル園の管理技術指導を、また、当室がマルドリ施設管理時の注意点を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○法人のメンバー間で、計画作成方法の理解が進むとともに、共通認識の必要性を理解できた。また、「紅プリンセス」の、今春以降の幼木管理技術を習得した。</p> <p>○本事業は今年度で終了するが、法人への支援を継続することで、当地域の産地維持のモデルとして育成し、他地域への波及に努める。</p>			
				
ワークショップ形式で経営計画を作成		新品種の栽培技術とマルドリ施設の管理について学ぶ		

標 題	シトラス講座で「紅プリンセス」を紹介		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 〃 産地戦略推進室
年月日	令和5年2月22日	場所	八幡浜市	
指導対象	南予儲かる農業人材育成事業重点対象者を含む新規就農者（85人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○次代を担う新品種として期待されている「紅プリンセス」の導入を促進するため、新規就農者らを対象とするシトラス講座で、品種特性や栽培方法を紹介した。</p> <p>○講座の収録では当室職員がほ場で栽培技術の説明や試食を行い、生産者に同品種の魅力が伝わるよう工夫した。</p> <p>○また、改正種苗法の概要も解説し、苗木や穂木の取扱いについても注意を促した。</p>			
結果と今後	<p>○若い生産者へ品種の魅力をアピールし、関心を高めるとともに、管内では、中晩柑類が栽培される半島部を中心に、3～4月の戦略品種として導入が進むことが期待される。</p> <p>○当室では、今後、地域適応性を見極めながら導入を促し、新たな産地化を目指す。</p>			
 		<p>左：期待の新品種「紅プリンセス」 右：シトラス講座で果実の魅力をPR</p>		

標 題	ICT 大型捕獲おりの実績検討会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年2月24日	場所	八幡浜市 JAにしゅうわ真穴かんきつ共同選果部会	
指導対象	真網代猟友会・穴井猟友会（5人） 真穴同志会青年部（5人）	連携機関	JAにしゅうわ	
普及指導内容	<p>○鳥獣被害が多発している八幡浜市真穴地区では、遠隔操作でイノシシを捕獲できるICT 大型捕獲おりの実証に取り組んでいる。</p> <p>○今年度の実績を踏まえ、おりを管理する猟友会会員と次年度の対策を協議するとともに、青年農業者に狩猟免許取得に向けた指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○捕獲実績向上のため、他地域で実績のある家畜の飼料を撒き餌として用いるとともに、大型捕獲おり周辺の防護柵の点検・強化を地域ぐるみで行うこととなった。</p> <p>○また、青年農業者らは「狩猟免許の取得は、自分たちの負担が増える恐れがあり不安だったが、地域を自身で守るために必要であることを理解した」との反応があった。</p> <p>○当室は、猟友会が今年度の実績を評価し、その反省を踏まえて、次年度に向けた対策に取り組むことを促し、大型捕獲おりの技術確立や他地域への波及を図る。</p>			
<p>【ICT 大型捕獲おり】 センサーにより、おりの入口付近でイノシシを感知するとメール通知と録画が行われる。スマートフォン等でライブ映像を確認し、遠隔操作で入口を落とすことができる。</p>				
		管理者と次年度の取組みを検討	捕獲に成功した2頭	

標 題	インボイス制度と簡易課税制度を学ぶ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年2月20日	場所	大洲市「にし川」	
指導対象	認定農業者、青年農業者、関係機関等（40人）	連携機関	大洲市、内子町、JA 愛媛たいき	
普及指導内容	<p>○大洲喜多地区認定農業者協議会及び青年農業者連絡協議会が合同研修会を開催し、講演会のほか、青年農業者や大洲農業高校のプロジェクト発表も併せて行った。</p> <p>○講演では、県農業経営サポートセンターコンサルタントの正司哲浩税理士が、インボイス制度の基本的な仕組み、登録の可否の判断方法、消費税の簡易課税制度などについて説明し、当班が今後の本格運用に向け適切な対応方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、自身の経営に直結するため多くの質問が出た。特に、道の駅等での取引の登録可否や、小規模な販売額でも登録が必要な場合事務処理が煩雑すぎるなど、現行制度への疑問点もあった。</p> <p>○当班では、今後の制度に関する迅速な情報収集に努め、適切な個別対応に努める。</p>			
				<p>左：税理士によるインボイス制度に関する講演 右：講演後、参加者から質問</p>

標 題	女性農業者が農福連携と地域資源について研修		機関名	八幡浜地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年2月22日	場所	大洲市 臥龍山荘ほか	
指導対象	いきいきネットワーク会員（12人）	連携機関	大洲市	
普及指導内容	<p>○大洲市、内子町の女性農業委員等で構成するいきいきネットワークでは、「農福連携と地域資源の再確認」をテーマに、「大洲編」として視察研修を実施した。</p> <p>○農福連携では、肱川町の「地域福祉事業所 凜心叶（りんか）」の椎茸生産と労働力支援について、地域資源では、大洲の城下町に点在する歴史ある邸宅等をリノベートした小規模分散型ホテルなど、地域が誇る施設建造物の誕生経緯や特徴を再確認した。</p> <p>○当班は、農福連携の取組を今後の経営に、地域資源を地産地消やグリーン・ツーリズムの推進等に活用するよう指導した。また、ホテルに会員が生産する食材の取扱いも提案した。</p>			
結果と今後	<p>○農福連携では障がい者雇用の理解促進と、改めて「人を雇う」ことへの再認識につながり、自家経営における労働力を見直す一助となった。</p> <p>○参加者は地域資源について、「名前は知っていたが詳細は知らなかった」「グリーン・ツーリズム等を考えていくためにも、このような地域資源の魅力を発信していきたい」など語った。次回は「内子編」を3月中に予定している。</p>			
				<p>左：農福連携による椎茸生産 右：国内外から注目の“NIPPONIA HOTEL”</p>

標 題	障がい者施設スタッフを対象としたジョブコーチ育成研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年2月3日	場所	西予市 野村福祉園	
指導対象	野村福祉園及び八幡浜・大洲圏域障がい者就労支援施設スタッフ（10人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○農福連携ビジネスのさらなる展開を目指して、障がい者施設スタッフが農業に携わるために必要な知識や技術の向上を図ることを目的に、農業版ジョブコーチ育成研修会を開催した。</p> <p>○講師の愛媛大学上野秀人教授が、土壌管理の基礎と実践について講義及び現地指導を行い、当班からは農作業安全について啓発を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加した施設スタッフからは、「畑の土壌状態による管理技術や農業機械の取扱いによっては大事故につながることにについて、理解を深めることができた」との感想が寄せられた。</p> <p>○当班では、農業分野への障がい者のさらなる就労促進を目指し、ジョブコーチの育成や、農福連携の推進体制の整備を行っていく。</p>			
				<p>左：現地で土壌状態を確認</p> <p>右：農作業事故事例の紹介</p>

票 題	アシストスーツ着用によるサポート効果を体感		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年2月6日	場所	西予市教育保健センター	
指導対象	西予市認定農業者、青年農業者、女性農業者（54人）	連携機関	西予市、JA ひがしうわ	
普及指導内容	<p>○農作業の軽労化が期待されるスマート農業技術のアシストスーツについて、商品化されている国内4メーカーの機材比較や着用体験を実施した。</p> <p>○着用体験では、農業者が実際に着用し、腕、腰、脚のサポート効果を体感した。また、農作業時にも体験できるようアシストスーツの貸出を行い、使用して感じたことや問題点を収集することとしている。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「農作物の収穫、草刈りで使用したい」「長時間の立作業に使いたい」など、効果を実感する声が多く聞かれ、アシストスーツへの理解を深めるよい機会となった。</p> <p>○農作業の軽労化に向け、今後も体験会の開催や貸出を行い、導入・普及に向けた方策を検討する。</p>			
				<p>左：アシストスーツの紹介</p> <p>右：アシストスーツの着用体験</p>

標 題	オレンジフェスタで「媛小春」をPR		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 〃 地域農業育成室
年月日	令和5年2月19日	場所	八幡浜みなと（八幡浜市沖新田）	
指導対象	管内女性組織連携団体（47人）及び 来場者	連携 機関	八幡浜市、伊方町他関係機関	
普及指導 内容	<p>○八西管内で農林漁業を担っている女性が一堂に集い、消費者との交流を図るオレンジフェスタを3年ぶりに開催し、鯛めし、みかん餅などの郷土食やマーマレードなどの加工品を販売した。</p> <p>○当室ではイベントに合わせ、県オリジナル品種「媛小春」の知名度向上のため、果実展示コーナーを設けPRするとともに、農業講座として実施したカットフルーツの実演では「媛小春」を食材として利用し、黄色い果実からは想像できない甘さや彩りで作品を引き立てた。</p> <p>○また、認知度を把握し今後の販売活動につなげるため、講座参加者には果実を配布し、アンケート調査を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○今年のオレンジフェスタは、地元女性農業者らと消費者が直接交流できる久しぶりの機会となり、多くの来場者で賑わった。</p> <p>○「媛小春」は、令和5年度から産地化に取り組むこととしており、スタートダッシュを図る上で、消費者に対し有用なPRとなった。</p>			
				<p>左：パネル展示による「媛小春」の紹介 右：カットフルーツの実演</p>

標 題	第2回果樹調査研究会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年2月8日	場所	果樹研究センター	
指導対象	各普及拠点果樹担当者ほか(41人)	連携機関	各普及拠点、果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○「甘平」の裂果対策の確立に向けて、県下13か所で取り組んだ対策の実証結果を共有し、効果的な裂果対策技術の確立について協議した。</p> <p>○「愛媛果試第48号」の栽培特性について、果樹研究センターから試験経過等の情報提供を受けた後、ほ場でかんきつ類のせん定実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○「甘平」の裂果対策は、園地条件に応じた徹底したかん水や土壌下層部への根域拡大により根からの吸水を安定させること。併せて中庸で落ち着いた樹相(樹勢)へ改善し果梗枝が細く果皮が滑らかで過度の急激な肥大をし難い中庸な果実を中心にならせることが重要と結論付けた。</p> <p>○「愛媛果試第48号」は今後の産地化に向けた栽培上の課題を情報共有し、また若手普及指導員を中心にせん定技術を習得するなどかんきつ栽培に関する技術力や指導力の向上を図った。</p>			
				<p>左：甘平の効果的な裂果対策について協議 右：温州みかんと伊予柑のせん定実習</p>

標 題	長期安定生産・収量向上に向けたいちご高設栽培に関する調査研究会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年2月3日	場所	いちご生産者ほ場(西条市明理川)	
指導対象	若手普及職員9人	連携機関	東予地方局産地戦略推進室	
普及指導内容	<p>○いちごの長期安定生産・収量向上に向けた栽培実証を通じて、若手普及職員の技術力・資質向上を図るため、現地研修会を開催した。</p> <p>○当日は、「令和4年度普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用して導入した高品質培土を用いた高設栽培ベッドの設置実習を通じて、安定した生育・収量を得るうえで重要となる、培土の通気性・保水性・排水性がよく経年劣化しにくい培土の組成や利点、栽培ベッドの構造等について研修を行った。</p> <p>○また、東予地方局産地戦略推進室から環境モニタリング装置の実証状況や今後の指導活動について説明があった。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「経年劣化しにくい培土の重要性が分かった」「安定生産に向け好適な栽培環境を整える必要性が分かった」等の意見が確認できた。</p> <p>○今後、関係機関と連携しつつ同栽培実証の収益性を評価するとともに、高設栽培におけるいちごの生産性向上に向け、県下いちご産地の現場指導に取り組む。</p>			
				<p>左：栽培ベッド設置研修 右：実証状況の説明</p>

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543